

心臓外科医である南淵明宏のエッセイ

「趣味と言えば、モノを書くこと。ブログを書いています」とのこと。

日本経済新聞 2013/6/8 より引用。

南淵明宏のブログ
6月26日より引用

<http://www.tokyoheart.or.jp/blog/blog001.php?bid=45>

最近50歳を過ぎた仲間内の心臓外科医が病院を変わる、転職を余儀なくされる、という事態があちこちで相次いでいます。

まあ、「古くなったから交換!」という憂き目にあうのはプロとして当然、と言うことなのかも知れませんが、60歳ぐらいまでは非常にクオリティの高い手術ができると思います。

いや、むしろ50歳はまだ登って行く余地のある、伸び盛り。

(以下、引用省略)

知 求 見 聞

私は1年365日、心臓外科医として生活しています。帰宅後、病院から連絡が入ると「何があったんだ!」と気になっていた患者さんの顔が浮かんで心臓が止まる思いがします。病院

私のひきだし

にいる方が気が落ち着きます。とはいえ、病院から5000以上離れば直ちに病院には行けなくなるので、リラックスできます。地方で開かれる学会に参加するときは、それができる

手術後の切り替え法

心臓外科医

南淵 明宏さん

⑤



様々な分野の知識、刺激に

し、酒も飲みません。よく眠って1日の疲れをとっています。趣味といえばモノを書くこと。病院には朝7時前には来て、8時すぎに仕事が始まるまでの

瞬間です。究極の緊張を迫られる心臓手術が終わった後、いかにリラックスし、休むかが大切です。緊張をほぐすことも、仕事をすらすらで不可欠です。私は外食はほとんどしない

間にブログを書いています。色々なことを考えるのが好きなので、それを文章にして他人に開陳したいという衝動にかられるのです。他人の文章も気になり、どんなふうに書いているかをチ

エックしています。これも人間観察なのかもしれません。様々な分野の専門家が集まる勉強会にも積極的に参加しています。ある会合では、生物学、人類学、数理解析、経済学などの専門家が集まり、意見交換をします。心臓手術の専門家として安住したくはありません。好奇心のおもむくままに知的な刺激を受け、色々な分野の勉強をしています。結果として人間観察の力が増せば、心臓手術にも生きてくるはず。 (談)

次回から囲碁棋士の吉原由香里さん